

Alfred Wegener Institute for Polar and Marine Research 所属の大学院生来所
寄生性カイアシ類の導入をめぐる国際共同研究

AWI 所属の大学院生 Marieke Feis さん(図 1)が二枚貝に寄生するカイアシ類の共同研究のため、平成 27 年 3 月 26 日～5 月 9 日まで竹原ステーションに外国人客員研究員として滞在します。

ヨーロッパでは、過去に現地産カキ類が病気のため激減し、それを補うために日本産のマガキを導入しましたが、それに伴って内部寄生性カイアシ類 *Mytilicola orientalis* も非意図的に導入されました。

そのオリジンを特定するために遺伝子解析を行っています。彼女のふるさとはオランダ、柔道の腕前は黒帯だそうで、アントン・ヘーシンクを想起します。ちなみに、本種は広島市で戦前にカイアシ類の研究を行っており、世界的にも有名であったのですが、原爆で亡くなった森喬以氏が記載した種なのです(図 2)。なにかの縁を感じます。



図 1 AWI 所属の大学院生 Marieke Feis さん



図 2 森喬以氏が記載した種